

# 頓珍漢素人俳壇

本学園の  
学生・教職員の方々から  
投句いただきました。

冬の月 読書三昧 忘援歌

多聞

雪の夜 弘前発つの 便りあり

楽葉

新春の 風が舞い込む 図書館に

落葉

閲覧の 本より出ずる 梅の花

松の実

読経が 響く堂内 鬼走る

粉雪

すが漏りだ バケツじゃ足りず 古紙を敷く

糶米

時計台 春を待ちわぶ 凍蝶が

傑作

あのころは 書物片手に 炭つつき

粗品

テキストを ばらばらめくる すきま風

緇松

今年こそ 祈り目を描く 雪達磨

雀宙

## 冬の名句

ほのかなる

うぐいす  
鶯聞きつ



羅生門

小西来山

### ●俳句の説明

羅生門を通りがかると、ほのかではあるが確かにうぐいすの音が聞こえた。羅生門と聞けば、渡辺綱の鬼退治などが連想されるが、作者は自己の体験にのみ基づいてこの句を作った。句中の雅語「ほのかなる」や「鶯聞きつ」に、「王朝時代への連想を誘う雅な情緒」や「春の到来を知ってなごみ動く心」などの技巧が見て取れる。

冬の  
図書館を  
詠む

この句と説明は  
本学の所蔵資料  
から

尾形侑編

『新編俳句の解釈と鑑賞事典』

笠間書院 2000

請求番号：911.3036|Oga

本館 書庫 BF



新たな年を迎えられましたこと、お祝い申し上げます（雀宙）